



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2021年5月1日

5 月 第231号

奈良・人と自然の会



<観察路の案内板作り>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	ペタキン池の歩み②	8
Monthly Repo ならやま	2	私の座右の銘	9
里山の今	3・4	ならやま投句箱	10
月例・レポ	5	ならやまプロジェクト	11
自然教室・レポ	6	行事案内	12
新入会員歓迎会・レポ	7	幹事会報告・会員動向・編集後記	13

壮春力歩

ささや 竹の囁き

会長 鈴木 末一

いよいよ今年中に八十路を迎える。認知機能の低下傾向が気になりだした。脳の活性化、脳トレに励まなければと真剣に思うようになる。「きょうよう(教養)がある」「きょういく(教育)ところがある」。そうでなければ高齢化が進行するよと巷では言われている。指先を動かして末梢神経を刺激することは、脳の活性化に良いようだ。右脳と左脳をバランス良く働かせるようにすることも大切なのだと言われている。

ところで、ならやまプロジェクトに参加して早くも13年目になる。ならやま里山林には、真竹や孟宗竹などの竹林があり、放置すると、どんどんと遠慮会釈なしに周辺地に侵出してくるので、整備作業は欠かせない。景観Gでは冬場に間伐などの手入れを実施している。近年導入したチップパー機が威力を発揮し、切り出した竹材のほとんどは粉碎処分をしている。

大量の竹材を有効活用できないものだろうかと考えたが、干支クラフトやストラップ、竹とんぼやカスタネットなど、出展イベントの工作材料として以前から活用されてはいた。そこで、先達の方々のアイデアやネットで検索したものをヒントにして、ここ数年、試作というよりも模作に取り組んできた。

昨年11月中ごろ、ある会員さんから「Myサンタ」作りをしたい、材料の準備などを、と頼まれた。ほかの会員さんに呼びかけてもらったら、25名の方々が参加され、いずれもオリジナルでなかなかの秀作が出来上がった。これからのこのような“放課後教室”を開いて欲しいとの声も上がる。

リクエストに応えようと、テーマについて色々と思いを巡らせる。そのうちに、ふと思いついたのが、3月のひな祭りに向けての「Myお雛様づくり」であった。日程は2月中旬に設

定した。正月明けとともに試作品作りに没頭する。試作第1号をならやまへ持参し、ある会員さんにコメントをもらった。帰宅して直ぐに第2号に取りかかる。

今回も25名ほどの希望があり、余裕をみて30名分を準備する。当日ふたを開けると試作見本の5体を合わせて35体すべてが出払う。予期しなかったほどの反響である。ますます創作意欲がかき立てられる。

2カ月ごとに開催できれば、と考えた。さっそく4月には、端午の節句にちなみ五月人形(武者人形)にチャレンジすることにした。

今回の作品の最大のポイントは、兜のできにあると思う。従って、すべて同じものにならないようにするために、細工は皆さんお一人おひとりの個性で工夫を凝らしていただき、オリジナルなものに仕上げてもらう。また、人形の左側には太刀を持たせることを共通に、右手には軍配、軍扇、采配のいずれかの自作のものを飾り付けてもらうことにする。

人形の頭や体や腕などそれぞれの部位にうまくマッチする竹材を調達する日々が続く。山積みされた竹の中から適当なものを探し出すのが大変である。「帯に短し、たすきに長し」であるが、使いこなすとうまく見えそうにもなってくる。小さな端くれで不要だから捨てようとする、竹が「まだ捨てないでくれ、ここに使ってほしい」とささやく。むろん、実際に声が聞こえるのではなく、ささやきに引かれるように指先が竹の端材へと伸びていく。兜の飾りつけを



していると、鋸や剪定鋏が色々な形のものを切り出してくれる。まるで竹のささやきに應えるかのように…。

いつまで続けられるかは解らないが、しばらくは、竹のささやきに耳を傾ける日々が続く。

Monthly Repo. **ならやま**

徳地 恵男

3月25日(木) 臨時活動 小雨 32名

3月26日(金) 振替活動 晴れ 44名

25日は
小雨模様の
中で午前中
の活動とな
る。26日は
春本番、BC
の「川井桜」



(サトザクラ)は満開となる。里山Gは部分皆伐と
マキ割り、エコGはゴボウの種まき、シイタケ、ワケ
ギなどの野菜を収穫する。景観Gは展望広場のり
面の草刈り、竹林の整備をする。花班はアガパンサ
スの霜よけを片づける。パトGからショウジョウバカ



マが咲いているこ
とを報告、果樹G
は実りの森ヘイチ
ジクの移植を行
う。

4月1日(木) 活動 晴れ 84名

昼の時間に新入会員13名中、本日ご参加の4
名を迎えて歓迎会がある。協働活動の日でもあり、
午前中里山Gの指導で里山林の樹木調査に参加
する。午後からはパトGによる春の自然観察会が実
施され27名が参加、美しいコバノミツバツツジや



ウワミズザクラの開花を見る。里山Gは部分皆伐地
域の整備、エコGはヤマイモの種イモを植え、畝に
黒マルチを張って春野菜の植え付け準備をする。ビ
オ班は西池の水生生物調査を実施、これから定期
的に調査を行うようになる。花班は山野草園の除
草、果樹Gは鹿よけ防護柵を設置する。

4月8日(木)活動 晴れ 81名 見学者1名

コロナ感染第4波で奈良、大阪に蔓延の危機、
手洗い励行を喚起する。久しぶりに実施された笠
置山登山の例会、奈良公園の自然観察会の報告
があり、新たに3名の新会員の紹介と挨拶がある。

里山Gは部分皆伐とチップ作業、クラブユート
ピアは赤松林の土壌改良に励む。エコGはナバナ
の最後の収穫、種を蒔いたハウレンソウなどの苗が
順調に育つ。景観Gはタケノコ掘りと真竹竹林の再
整備、ビオ班は西池の泥さらえ、花班は花畑の草取
りと施肥を行う。パトGは2コースのパト、道案内
板、樹木銘板の取り付けを行う。果樹Gは杉の皮む
きと記念樹富有柿に鹿対策として有刺鉄線で保護
柵を作る。

4月15日(木) 活動 晴れ 73名

すがすがしい春の一
日。活動が終わった後、
楽しみにしていた五月人
形を一緒に作る。大小の
竹を材料に兜をかぶり、
刀と軍配をもつ武者人
形ができる。竹トンボを
作る経験しかなかった
が、越前竹人形に負け
ない作品となる。3月の
雛人形に続き放課後ク
ラフト教室は盛会。次回が楽しみ。



活動しやすい季節が到来し各グループの作業は
進む。ならやまの樹々の緑は濃くなり草も伸びだし
てくる。しかし、昨年大豊作だったタケノコが今年は
期待通りには採れない。

景観グループ

里山の今

パトロールグループ

◆ミツバチのこと

中川 徹

ならやまで出合うミツバチは在来種のニホンミツバチが多い。日本書記に奈良の三輪山で養蜂を試みたとの記述があるほど、古くから飼育され、ハチミツが薬として貴重な甘味料として珍重されていた。

本来は野山の木々等の空間に巣をつくり一年中活動している。花の少ない冬場は巣内で数千匹が蓄えた蜜を食べ生きている。寒い日でも気温が10℃以上の日には蜜を求め、外に出るので出合うことがある。

ニホンミツバチより体色がより黄色っぽくて大きいのが、明治時代に外国からきたセイヨウミツバチである。ニホンミツバチにくらべ飼育がしやすく、とれるハチミツも格段に多いので専業の養蜂業がなりたちました。しかし、寒さとオオスズメバチに弱く、飼育には人の手助けが必要です。現在はハチミツをとること、とともに、受粉用にビニールハウスで利用するハチとして販売されたりすることが多くなっている。

アメリカのアーモンド農園では、花粉媒介を全面的に養蜂家の飼養するミツバチに依存しているのは有名であるが、日本でもイチゴ農家は、販売用の美しい形にするためには、ミツバチの受粉を必要としている。

日本養蜂協会のパンフレットによると、1つのハウスに一群、数千匹が必要で数万円すること、餌の糖蜜が絶えず必要であること、イチゴ栽培が終わると、残存したハチを巣ごと焼却処分すること、との記述があった。

彩りの森でやっと入居してくれたミツバチの冬の食料を奪うことになる採蜜に迷い、結局、巣の害虫のスムシに寄生され採蜜に失敗した私には驚きであった。

今年はなんとしても採蜜したいです。



◆ならやま春の観察会

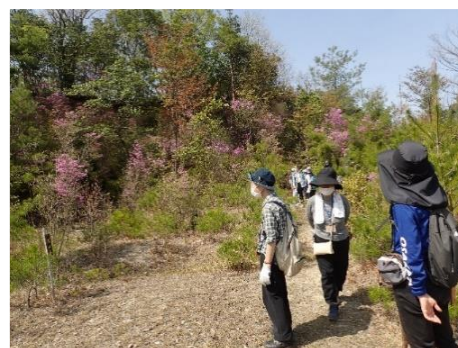
山本 隆造

ならやま自然の森が最も華やぐ季節になりました。パトロールグループではこの時期に合わせ、4月1日ならやま春の観察会を催しました。参加者27名が3班に分かれ、小島さん、木村宥子さん、守口さんの案内のもと、自然の森を彩る花々を堪能しました。

ベースキャンプからサイクリングロードを東に向かって歩きます。彩の森を過ぎた左側斜面に、これまで気付かなかったオドリコソウ（帰化植物のヒメオドリコソウとは別種）の群落があり、白っぽい花を付けています。山桜やウワミズザクラの花を見て自然の森に入ります。

ショウジョウバカマの群落があり、10株ほど紫紅色の花が咲いています。谷の出会いから鶯の鳴き声を耳にしながら松山平に向かいます。登るにつれコバノミツバツツジの鮮やかな紅紫色の花が目立ちます。松山平手前のピークがならやま最高点（標高120m）。狭いですが、ピークに立つと下には松山平に咲くコバノミツバツツジが満開です。遠くには若草山の緑とその先の春日山原生林が望めます。

松山平で満開のツツジを堪能。実りの森へ下る途中サルトリイバラの



かわいい黄花を觀賞し、観察会は終了です。

これからもコバノガマズミ、ネジキなどの花が次々と開花します。新緑が気持ちいいこの時期、ならやま自然の森の散策がおすすめです。



虫だより

里山の今

花だより

◆5月の昆虫

菊川 年明

ならやまで5月によく見られる昆虫を2種ご紹介させていただきます。

＊ベニカミキリ

小型で紫がかった赤色の美しいカミキリムシである。体長は13～17mm、赤色の部分は胸部と上翅(背中)で、胸部には5つの黒紋がある。頭部と触覚は黒色である。花に集まり、蜜を吸う。赤いので、止まっていなくても、飛んでいてもよく目につく。幼虫は乾燥した竹材の中で育つ。



＊ヤマサナエ

サナエトンボ(類)の1種である。サナエトンボの中ではかなり大型で、体長は63～69mm、体形はスマートである。

サナエトンボは稲が早苗の頃にその大方が現れるので「サナエ」の名がつけられている。

サナエトンボの仲間は、体を水平にして止まる習性があり、地面にもよく止まる。



◆冬青

桜木 晴代

ソヨゴは里山林に数多くあり、冬にも緑の葉を茂らせ、夏には緑の実をつけ、秋に実は赤く色づき、風にそよぐ。その様から、また、冬の青さから名がついたという説がある。

ならやまでは、夏のイベント時の子どもたちのノコギリ体験の対象として使われている。

4月の里山では、ソヨゴはようやく新芽が顔を出したところである。冬に落ちた赤い実は枯れ葉に覆われ姿はない。波打つ葉の特徴からソヨゴの木と判断する。



春の緑の葉



新芽

そのソヨゴの葉は薄いピンクに布を染めるという。染色家の志村ふくみさんの著書「語りかける花」に興味深い一文がある。

＜姿美しく、愛くるしい冬青の寒風の中に凜としてそよぐさまが好きである。そして何よりも、そのまっ青な葉を炊き出して、染め上がってくる鴉の羽のようなうすべに色を何にたとえよう。私は手前勝手と笑われても、この色を中老の優しい女性におくりたい。若い女性の色ではないと。若い盛んな生命力が抜けてゆき、うっすら鼠がかった人生に、薄紅を刷いたような、年老いてこそ身に添う色なのである。髪に少し霜が下りて、老いがどこからかしのびよる間に、どうかあなたの心身をやさしく包んで——冬青の淡紅色はそういう色の響きと香気を秘めているように思われる。＞

草木染めが趣味の一つのパトロールグループリーダーの小島さんは、ならやまの木々でも染めておられる。果たしてソヨゴでの染色は試みられたであろうか？

4月 月例研修会

笠置山(笠置寺)ハイキング・花見・レポ

千載 輝重

春爛漫の4月6日(火)9:45、老若(?)男女15名が笠置駅に集合。汗ばむ好天の中、一路笠置寺を目指して出発。標高289mの小山ではあるが、登山道は1kmでかなりの急こう配を一気に登ることになる。それでも途中に、ウラシマソウ、マムシグサ、ギンリュウソウ、キランソウ、ヒメツメグサなど、山道らしい草花に足を止めながら、落伍者なく40分で到着。

事前をお願いしていた、前住職小林さんに従って礼堂(本堂)に向かう。目の前に現れるの



は高さ20mのとてつもない巨岩。弥生人たちにとって、まさに神の仕業にしか見えなかっただろう。本尊弥勒摩崖仏の麓から弥生時代の石剣が発見されたので、この時代から信仰の対象であったことは間違いなさらしい。そして巨大摩崖仏はどのようにして彫られたのか。『天智2年(664年)「天人下りて仏を成す」』との文書が残されているらしいが、実際は渡来人によるものとのこと。巨岩信仰、磐座信仰に仏教が一体化したのは、奈良時代の神仏混淆の現れなのかなあ、と勝手に推量した。

奈良時代～平安時代の全盛期にはかなりの伽藍が山中に展開されていたらしい。ところが元弘の変で倒幕を目指した後醍醐天皇の味方をしたばかりに、北条軍に攻められ攻防1か月で全山焼亡。礼堂を燃やす炎は巨岩の表面を焦が

し、本尊弥勒摩崖仏も光背の跡形を残すのみとなった。近年、炎で消えた摩崖仏が光学的に分析され再現され、月光のもとに撮影された美しい姿が礼堂に飾られている。

少し進むと巨岩に挟まれた千手窟がある。もともと山岳信仰の修行場であり、南都仏教とともに栄え、東大寺との交流も深かった。実忠和尚が雨ごい祈念のために窟に向かって念じていた折、突然に岩が崩れて穴があき、光明に誘われて穴を進むと兜率天での仏による悔過法要が営まれていた。これを人間世界で行うべしと決心し、始めたのが現在東大寺二月堂に伝わる修二会であり、その初回は笠置寺の礼堂(正月堂)であったとのことである。

次に現れるのは炎の洗礼を受けずに今も残る巨大摩崖仏(伝虚空蔵菩薩)で、その姿をきれいに残している。拓本がとられ掛け軸として京都のとある体育館に保管されているが、大きすぎて飾られることがないらしい。小林さんとしては何とかJR奈良駅あたりで飾れないだろうかと念じているとのこと。

年齢85歳とも思えない声量と軽妙な語り口で、笑いあり感心するところありで楽しい案内であった。

胎内くぐり、ゆるぎ石、山頂からの木津川の眺望に感嘆しつつ、行場をめぐり、後醍醐天皇行在所跡を経て下山。

飲み物を仕入れて少し遅い昼食。晴天のもと清流のほとり、三密を



避けてのささやかな宴会はそれなりに盛り上がっていた。

食後の散歩として、布目川のおうけつぐん甌穴群を見学、笠置発15:28の電車で帰路についた。

参加者の皆さん、お疲れさまでした。そして楽しい一日をありがとうございました。

自然教室だより

4月・春爛漫の奈良公園 桜見物 報告

辻本 信一

昨年は思いもよらぬコロナ禍のため、一度も自然観察会を実施することなく貴重な一年間を棒に振ってしまいましたが、今年は満を持して4月5日(月)コロナ対策として昼食を挟まない午前中のみの観察会を、春爛漫の奈良公園にて全員マスク着用のもと実施いたしました。

二日前までの雨の予報は皆さまの熱意が通じ見る見る好転。当日は天候にも恵まれ、会員のお友達1名を含む総勢17名の方々にご参加いただきました。



【行基像前に集合】

最初に目指したのは県庁東にある東大寺知足院より移植されたナラノヤエザクラ純正種とその碑。今年は温暖化の影響もありソメイヨシノはじめ各種桜の開花は10日ほど早まりましたが、カスミザクラを起源とするこちらの桜はまだ蕾の状態。とはいえ、幼木ながら天然記念物としての威厳が感じられました。



【ナラノヤエザクラの前で】

そこからは目と鼻の先、京街道沿いの「みどり池園地」南側ではこの時期満開のナラノココノエザクラの花が間近で観察できました。

ガク片10枚と一風変わっているのが目印。花の中央をよく見ると雄蕊が花弁化している様子も観察できました。



【ナラノココノエザクラの前で】

途中、依水園近くの民家では堀越しにムベとミツバアケビの花の競演が見られ、赤紫色の見事なハナズオウの花も見ることができました。

次に訪れたのは東大寺大仏殿北側にある名物のシダレザクラ。下の方の枝が鹿にかじられディアラインを形成し通称オカップザクラの名の由縁となっています。



【オカップザクラ】

その後東大寺大仏殿の回廊沿い石垣の上に生える可憐な春の草花を観察しながら南に移動。

東大寺東塔院跡の広場ではナラノココノエザクラの花びらが雪の如く降り積もり、花びらを食む鹿とあいまって幻想的な光景を生み出し、休日にはたくさんのカメラマンが訪れる有名な撮影スポットとなっています。もう一つの撮影



【桜の花びらと鹿の競演】

本日のトリは春日野園地北側の里桜。そこには4月中頃まで見ることのできる花びらに葉緑素が含まれ黄緑色を帯びた「御衣黄」、エドヒガンの特徴を有し壺状のガク筒を有す「八重紅枝垂れ」、大ぶりで見事な「紅豊」はじめ数々の里桜が艶を競います。



【春日野園地の紅豊】

今回も紙面スペースの関係で自然観察会での素晴らしい出会いを全て紹介することはできませんでした。奈良の自然にご興味のある方は、次回、観察会で是非お会いしましょう。

皆さまのご参加お待ちしております。

新入会員歓迎会レポ

コロナ禍での歓迎会となった。

三瀬 英信

今年の新入会員歓迎会は4月1日(木)に予定通り開催された。コロナは所構わず訪れる。ならやまのイベントもこの影響を避けては通れない。通常だと前年の新入会員がホストとなり、賄い担当も腕を振るい多彩なメニューの料理をしつらえて盛大な歓迎イベントが開催される。新入会員のみならず既会員にも楽しみなイベントの一つだ。

今年はコロナ第4波がささやかれる中、食事を伴う大人数での会食は避けなければならない。内容も簡素にして実施することが幹事会で確認された。とは言え、新入会員のみなさんには記憶に残るものに出来ないだろうか？



辻本総務部長の協力を得て、ならやまの資産である活動の記録写真からえりすぐり、グループの活動紹介のパネル展示を行った。



また、既会員から新会員に向けたメッセージを頂きボードに掲示し、辻本さんから一点ずつコメントを添えて紹介された。いずれも心に残るメッセージだった。

例年4月からは豚汁の提供を行っていない。何も無い歓迎会は寂しいではないか・・・？

賄いの皆さんにはお手数を煩わすことになるが、せめて豚汁の提供ができないだろうかとお相談したところ、快諾を頂き特製豚汁の提供



4名となった。

徳地幹事の司会進行で予定通り12時に開始。はじめに、徳地さんから参加いただいた新会員の紹介を行う。続いて、鈴木会長より新会員の皆さんの



活躍に期待を込めての歓迎のお言葉。その後に、新会員お一人ずつ自己紹介、入会の経緯、抱負などを語って頂き、歓迎の記念品として、ならやま産のタケノコのセットをお贈りした。採れたて美形の二本は、既会員から



の歓迎と友情の印の赤いリボンで飾られた心のこもった一品だった。

が実現した。感謝！感謝！

現在の会員数は164名。今年度にお迎えした新入会員は13名。当日の参加は、コロナ自粛もあり

◆ペタキン池の歩み②

羽尻 嵩

2012年5月3日 バラタナゴを育種する池が完成。

※ タナゴは二枚貝に産卵する。そのため2枚



写真 阿部氏提供

貝(タガイ)の育種も必要となる。

3月初めから、新池に投入する貝がならやまの水に合うかどうかの

水合わせをしてきたが、貝の無事が確認されたので、5月10日に15個の貝(タガイ)を新池に入れた。

6月7日 ニッポンバラタナゴの放流

近畿大学農学部の中川忠生先生と、担当の学生数名がバラタナゴのオスとメス各5匹計10匹持ってこられ、それをみんなで新しい池に放



流した。先生から会に「ニッポンバラタナゴ里親団体第1号」の認定証が渡された。

7月31日1cmぐらいの稚魚がメダカのように群れをなして泳いでいた。網ですくうとバラタナゴの稚魚が数匹かかった。万歳!



これでバラタナゴ育種の第1段階は成功し、タナゴの育種は第2段階に入った。

第2段階とは：タナゴを増やすためにはタガイ(二枚貝)を増やさなければならないが、タガイの幼生はヨシノボリに寄生して成長していくので、バラタナゴの育種には、タガイとヨシノボリの育種も必要です。

10月4日 シマヒレヨシノボリの放流

このヨシノボリは、木津川水系で学生たちが9月末に捕獲してきた8匹です。タガイは春先から多数の幼生を放出し、その幼生はヨシノボリのエラに付着し栄養分をとり、数週間後に稚貝となります。

12月11日 タナゴ池の生物調査

北川先生と学生数人でポンプと網で水を掻き出して、池の中の生物を調べた。



《タナゴ池の調査の結果》

ニッポンバラタナゴ225個体、シマヒレヨシノボリ1個体、タガイ14個体、その他エビ類など多数が捕獲された。

バラタナゴは10個体から255個体と大幅に増えた。しかし、タガイは15個体から1個体に減少し、稚貝は全く見つからなかった。

ヨシノボリとタガイの育種は、次年度以降の課題となった。 (6月号へ続く)

私の座右の銘

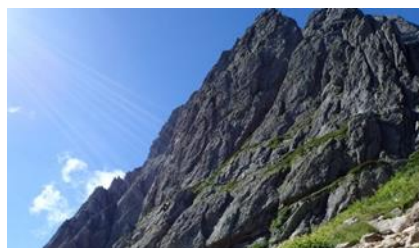
チンネの教訓「危険と困難」

中井 弘

半世紀以上も前のある時期、私は岩壁の登攀に魅せられ、ロッククライミングが専門の山岳会に入会し翌年の劔岳夏山合宿に参加した。

劔岳(2999m)は全山花崗岩の硬い岩からなり、激しい侵食によって深く抉られた谷底から高い岩壁が立ち並び、クライマーたちの日本有数のゲレンデとなっている。

ドイツ語の「チンネ」(大きな岩壁を持つ尖^{せん}峰^{ぼう})と名付けられた岩壁を目指す先輩たちをサ



三の窓コルから見たチンネの岩峰

ポートして、彼らの重い登攀用具を担いで長く急峻な「三の窓雪溪(氷河)」を登った。

三の窓コルで先輩は、「チンネ」が間近に見える岩の上に私を立たせ、頂上に登攀するにはどのルートが可能かと問うた。岩登りを始めたばかりの私には、この垂直の岩壁を登ることなど絶対に不可能に見えた。数時間の間、彼らが登攀するのを畏敬の念をもって眺めていた。

数年後、その山岳会は鹿島槍ヶ岳で大きな遭難事故を起こし解散した。

私は会社内の岳人^{がくじん}を糾合して山岳部を立ち上げ、穂高岳などで訓練を重ねた上で、劔岳の劔沢にテントを張りチンネ登頂を目指した。

数年前に眺めた同じ場所から今日登るルートを目で追った。訓練のお陰もあってか、今度は登るルートがよく見えた。高度感に疎^{すく}みながらも、それほど危険とは思わず快適に完登することができた。だが雷雲がみるみる広がり、雷が自分たちと同じ高さで鳴り始めた時の恐怖は大変なものだった。頂上直下の岩の下に金属製の登攀用具を押し込んで岩陰に逃げ込んだこと

が忘れられない。

ある時期から山の本を読む楽しみも手に入った。深田久弥や冠松次郎、加藤文太郎、松濤明などの紀行文、雑誌、山岳全集、小説に胸が躍った。井上靖の「氷壁」に触発されてナイロンザイル切断事故の現場・前穂高岳東壁や松濤明の遭難した槍ヶ岳北鎌尾根などを攀^よじ登った。

世界山岳全集でエルゾグ、レビュファ、ボナッティ、H・ブール、メスナーなどの著作に胸躍らせ、アルプスやヒマラヤに思いを馳せた。

フランス山岳会ジャン・コストの著書「アルピニストの心」で『登山において、＜危険＞と＜困難＞を明確に区別するのは難しい。経験を積み技術を上げれば危険は困難に変えられる』という一文に接した時、チンネの経験に理論づけができたと感じた。以来この言葉は「私の座右の銘」となり、人生観に大きな影響を及ぼしてきたと思っている。「チンネの教訓」である。



仙人池から劔岳遠望

中年になっての岩登りはむづかしい。そこで沢登り専門の山岳会に入会した。山靴を脱いでフェルト張りの沢靴に履き替えたのである。

大峰や台高の滝・釜・瀬・淵が織りなす溪谷美、神秘的な「碧」の流れを遡行する沢登りに傾倒した。激流の徒渉や水面近くをへつり、ザックや服を身に着けたまま泳ぐ。滝の中を直登するシャワークライミング。頭と体力をフルに使って難所を突破していく。夜は焚火を囲んで、谷底から小さな星空を見ながら仲間と語り、酒を酌み、至福の時間を過ごす。沢登りでは大自然の中で自分の技術と経験、知力、五感が生きる。ここでも危険と困難を峻別する「チンネの教訓」が生かされていたと思っている。

ならやまトーク・投句(5月 修正版)

葉桜や聖火ラシナーゆるゆると 坂東久平

(佐保川堤はもう葉桜。6人に守られた聖火が、ゆっくり走り行くと)

花会式吉野の山を聖火出づ

阿部和生

(金峯山寺の花会式。その前をいま聖火がスタートしていく)

薬師寺の塔ゆらゆらと花筏

坂東久平

(薬師寺の塔は大池からの眺めが良い。桜の花筏と塔が水面にゆれて)

老人会語り歩くや花の下

阿部和生

(「ゴザ敷いて一杯」は憚られると、桜の下で新年度の計画など語る)

彼岸をば待たず逝きしと友の報

笠井文夫

(花の便りに混じって友の訃報。会者定離とはいふものの、只々合掌)

ワクチンの異変種と競う花吹雪

岡田安弘

(ワクチンで展望が開けたと思うと異変種出現、出口が見えない闘い)

孫達しどうしているか柿若葉

岡田安弘

(4歳になる孫と1年以上も会えていない。お姉さんになっただろうな)

畑打つや土も老夫も深呼吸

藤原 勲

(二陽来復、後期高齢者といわれても、野良では現役。さあ始めるか)

春眠や目覚まし三つ五分ごと

藤原 勲

(よく寝られるのは体が若い証拠。羨ましい限りです・・・とは誰?)

春の声受話器飛び出し孫元氣

ハ木 順一

(飛び出す声! 思わず元気な声で返事しているご当人。同感・同感)

幼子のリード背中に歩く春

ハ木 順一

(よちよち歩きの幼児、外では目が離せない。いっそリードをつけてと)

凍り滝碧色透る春氣配

中井 弘

(氷瀑が陽光に溶けはじめた。碧く透き通って美しい。高山にも春だ)

花に舞う踊子草や佐保堤

古川 祐司

(桜が咲く佐保川堤には、決まってオドリコソウの群落が舞姿を見せる)

春耕にまろび出でたり土竜の仔

古川 祐司

(堆肥の塚を掘る。春眠を破られ土竜の仔が5匹も。ゴメンナサイ)

ダイサギの踏み惑ひたり葦の角

古川 祐司

(西池のダイサギが抜き足差し足。葦の尖りに足の置き場に迷う風情も)

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

5月の活動について

5月 6日： 協働活動日・アダプトプログラム

5月 27日： 備品点検日

5月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	No.18 地区部分皆伐地区整備・チップ処理、薪割り、櫓木本伏せ準備、 ユート：アカマツの森整備
エコファーム	ピーマン、ミニトマト、スイカ、さつまいも、ゴーヤ、オクラ、ナス、キュウリなど 各種野菜の定植 ニンニク、タマネギ収穫 水田整備（水入れは5月下旬）
景観	整備：ミツバチ巣箱周辺、BC 周辺、彩りの森、実りの森、佐保自然の森草刈り整備 ビオ：水路整備、水生生物調査 花：花壇の整備
パトロール	1～4 コースパトロール、観察路・丸太階段整備
果樹	鹿よけネット再構築、鳥よけネット設置、B 地区の柵設置、果樹園除草

<特記事項>

- ① 水路整備の主活動は下期に延期し、当面は部分的な補修整備を進める。
- ② 学びの森の再整備に向けて、モニュメントの設置を含めてデザイン案を具体化する。
- ③ 鹿害対策について、有効な対策を調査する。
- ④ 2021 年度予算について、各グループでの節減見直しの結果、何とか収支の見通しがついた。今後とも、備品管理を含めて無駄な出費の発生しないように努める。
- ⑤ コロナ感染拡大が進む中で、with コロナのルール順守を再徹底する。今後の行政の判断によっては、活動休止も考える必要がある。

活動日： 毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の 19 時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19 時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率 60%以上の場合は翌金曜日、木曜日とも同予報であれば中止



行事案内



5月自然教室のご案内

新緑の生駒滝寺周辺 自然観察会

辻本 信一

昨年はコロナ禍のため、年間を通し中止となりました自然教室チーム主催の自然教室は、4月5日の奈良公園での桜見物を皮切りに、今回2度目の開催となりました。

ご案内は皆さまお待ちかねの(自然教室チーム専属講師?)大阪自然史博物館友の会副代表、田代貢先生にお願いいたします。

「生駒の山のふもとで、せせ、溪の瀬音を聞かせ、

史もた、訪れ、山大乘瀧寺(通称滝寺)周辺をギンリョウソウにも出合えるこの時期に変え、下記要領にて実施いたします。



コロナ禍により急遽中止させていただきます。

【ギンリョウソウ】

1. 日時: 5月17日(月)9時30分~12時(予定)
2. 集合場所: 近鉄生駒駅中央改札口(出たところ)
3. 持ち物: 今回も昼食は挟みませんので、飲み物と筆記用具、あれば図鑑とルーペをご持参ください。
4. その他: 事前の申し込みは不要です。

雨天時の中止は当会申し合わせ通りといたします。(但し、予備日は設けておりません)

担当: 辻本 (090-4450-8459)

6月月例研修会のご案内

日本最古の官道・横大路(大道)を歩く!

富井 忠雄

大阪府と奈良県を東西に結ぶ竹内街道・横大路(大道)は、日本書記の推古天皇21年(613年)の条に「難波(なには)より京(みやこ)に至る大道(おおじ)を置く」と記された「大道」のルートと重なることから、日本最古の官道と呼ばれています。この道を通じて、中国や朝鮮半島からの外交使節、遣隋使、遣唐使によって多くのことがもたらされ、それと共に仏教が伝来し、聖徳太子らによって多くの仏教寺院が建立されました。竹内街道・横大路は2017年に日本遺産と認定されました。

今回は磐城駅・長尾神社から東に向かい、長谷本寺から太神宮燈籠(おかげ参り)そして、下ッ道との交差点のある八木札の辻まで歩きます。

【実施要項】

1. 日時: 6月8日(火)
2. 集合: 近鉄磐城駅(近鉄南大阪線)9時45分
近鉄大和西大寺8:38-橿原神宮前9:11・9:25--近鉄磐城駅9:43着
3. 雨天の場合: 申し合わせ60%以上中止
4. 行程: 近鉄磐城駅9:50発-長尾神社-大公園(昼食)-長谷本寺-専立寺・寺内町-不動院-太神宮の高燈籠-入鹿神社-八木札の辻-近鉄八木駅15:30頃(行程約9km)
5. 持ち物: 弁当、飲物、雨具、数物
6. 世話人: 千載輝重、青木幸子、富井忠雄
7. 連絡、申込み: 富井忠雄

メール: t-tomii@ares.eonet.ne.jp

TEL090-7496-8342

6月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木) 3日 協働活動日
- 24日 春の感謝祭(未定)
- * 月例研修会 8日(火) 右ページに案内



八木札の辻

2021 年 4 月度幹事会報告

日時：2021 年 3 月 30 日 15:30～17:30

I. 会計・総務部より

1. 会員動向：会員数 169 名。変化なし。
2. 会計報告：収支報告あり。
3. その他：会員動向の情報として、会報誌に入退会者の氏名を掲載する。

II. 活動・行事関係

1. 3 カ月活動予定

- ・5/15 総会、13 時～ホテルリガール春日野

2. ならやまプロジェクト関係

- ・4/1 新入会員歓迎会 協働活動は里山調査シニア自然大学から入会の 5 名も対象。午後、春の自然観察会を行う。
- ・4/22 草刈機安全講習は安全最優先で行う。雨天の場合は中止として別途計画する。

3. その他

- ・ならやま活動の雨天中止申し合わせ、「前日 19 時現在での気象庁天気予報」とする。
- ・朝日親子自然教室、10/17 に変更。山もりてんこ森と日程が重なった場合は分担して対応する。
- ・7.8 月の「夏だ休みだ里山で遊ぼう」イベントは午前中のみ、参加人数は 30 人まで、会費無料として計画する。

III. 喫緊・提案事項

1. 各種助成金の整理は順調に進んでいる。
2. 来年度予算：資金収支が厳しいことから、各グループは予算の削減見直しのうへ 3/31 までに修正案を提出のこと。

3. 臨時幹事会：4/13 zoom 会議

総会資料確認、組織体制表の確認。

役員改選期ではないので幹事は変わらないが各グループで組織変更あれば申請を。

IV. 広報・関係

- ・ネイチャーなら 5 月号編集内容、担当確認

V. 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会 ・自然教室

5 月度幹事会：4/27 (火) zoom 会議



<安息日>

今日は安息日（何も予定の入っていない日）。とはいえ、何かと気に掛かることが多い。もっとゆったりとすればいいのに。

けれども、仕事であれ何であれ、社会と関わっているとのおのずと自分の立ち位置が生まれ、その位置にふさわしい役割を果たすことに達成感を感じ、挫折も味わう。それが生きているということなのだろう。重荷と覚えることもあるけれど、一人では何もできないからみんなに助けを求めよう。ともに考えともに喜ぶ、共感できる仲間がいることでほっとする。

こんなことを考えてみるのも安息日だから。



（ちなみに、安息日とは、正しくは、アブラハムの宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラム教)において、何もしてはならない日と定められた日で神に感謝し礼拝する日のことです。怠け者の日ではないのでご注意ください<m(__)m>)

会員動向（敬称略）

<入会者>

4 月 1 日：岡田俊司、岡田扶実子、岡田高志
中嶋さよ子（再入会）、梨本 哲

<退会者>

3 月 31 日：勝田 緑、川岸次郎、川岸美子
小橋登代、難波玲子、前 津久見、宮崎まさ美、
森田展正、山崎 治、山田友光、永渕元弘

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：観察路の案内板作り

観察路は No.1～4 の 4 コースあり、パトロール G がわかりやすく案内板を整備しています。